

緑と友に

根城小 六年 幸崎 日奈乃

(八戸植木園芸協会会長賞)

「緑や花は、いつまでもある物だ！」
と、ずっと私はそう思っていました。

私は、家族で、毎年春に植樹祭に参加しています。丸はだかになってしまった茶色の山に木を植える作業の手伝いです。その植樹祭にたくさん漁師さんが参加していました。なぜ、海で働く漁師さんが、山に木を植えるに来ているのだろうと、私は不思議に思いました。お父さんにその理由を聞いておどろきしました。それは、山に本物の木が無くなってしまったため、落ち葉などの有機物がゆっくり分解され、川や海などに流れなくなりそれを餌にする植物性プランクトンが減ってしまい連鎖で、魚が捕れなくなってきましたというのです。漁師さん達は、魚が捕れないとなげいてばかりではいけない、自分達も山に木を植えようと頑張っているのだそうです。

私の家の周りの公園でも、桜の木や色々な花がたくさんあり、私達の目を楽しませ心も温かくしてくれます。でもここ何年かで、そ

の公園の木がたくさん切られてしまいました。

防犯や道路に落ちる枝や落ち葉のために切られたようです。でも、そこを通るたびに、私はさびしい気持ちになります。春にはうすいピンクの空、夏には緑と太陽のキラキラした空、秋には赤やオレンジのすがすがしい空、冬には、白い雪の花と冷たい空気、これらをいつも、いつまでも見ていられる、と私はずっとそう思ってきました。しかしそうではない事を思い知りました。

私達人間は、「緑や森や花はずっとあるものだ」とそう思っています。森や緑は永遠で、木や植物を使い過ぎたり、手を加え過ぎれば、いつか無くなるという事に気づかずに。

だから、私は、今からでも木を植えなければいけないと思います。茶色の山に本物の木を植え、本物の緑の森にもどさなければならぬのです。

私は、木を植えに行くたびに教えられます。私達は、たくさん緑や花に守られて、一緒に生きているという事を、この事を忘れずに、私達が緑や花を守ってあげたいと思います。